

報告ダイジェスト

- ・12/9(木)～14(火) ハイ!カモニン!開催報告 (報告1)
- ・ぱれっと寄付金獲得プロジェクト (報告2)
- ・たまり場ぱれっと青学とのコラボ (報告3)

Hi! Come on in! 報告! ハイ!カモニン!～ねえ、あそぼうよ!～開催報告

去る12月9日(木)～14日(火)、工房ぱれっとのぬいぐるみと手仕事展「ハイ!カモニン!～ねえ、あそぼうよ!～」を開催しました。商品と作り手達の魅力を伝え、地域の方と交流する機会を作るため、皆様からのご寄付とヤマト福祉財団の助成によって実現することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

●一点もの手作りのぬいぐるみ

「らぶらび」に加え、メンバーの一人である桶谷樹里さんが作りたいものとして挙げた「ワニ」「りんご」「さくらんぼ」「小松菜」…など、様々な種類の動物や食べ物の手のひらサイズのぬいぐるみ達。コロナ禍となって販売機会が激減して約2年、作り溜めた数なんと700体近く。そのどれもが同じデザインのない一点ものです。製作ボランティアの林薫子さんは冗談ぽく笑いながら「こんなに凄いものは私にはとてもできないわ」と以前からおっしゃっていました。

●会場はどんなところ

ぱれっとから程近い、社会福祉法人東香会が運営する「渋谷東しぜんの国こども園」1Fのスペースです。子育て支援プログラム、ライブや映画上映、ギャラリーなどとして利用されており「人と街がつながり溶け合う、こどもとおとなのための居場所」をコンセプトにした場所

です。併設されている small alley cafe (現在はクローズ中)には、3年程前からおかし屋ぱれっとのクッキーを納品しており、ここに集うこども達や保護者、園のスタッフとぱれっとのメンバー達とは、お菓子を通じて交流を育んできた場所です。これから大きく育っていくこども達に、障がいのある人たちが関わる物事が自然な形で隣にあってほしいというのが、この場所を会場に選んだ理由の一つでした。

●出会い方を大切に

園長の名古屋彩佳さんは「事前情報として“障がい”ということの説明するとこども達は身構えてしまったと思う」とおっしゃっていました。今回の展覧会では、多くの人にとって工房ぱれっととの初めての出会いとなります。その入口を「楽しい!」「かわいい!」「これなに?」とワクワク心躍るものにしたいと思い、様々な分野のクリエイターの方々にご協力をお願いし展覧会を作り上げました。

●様々な視点から演出～会場デザイン～

まずは舞台美術などを手掛けるセットデザイナーの南志保さん、グラフィックアーティストの牧かほりさんに会場デザインと設営をお願いしました。お二人は14年前におかし屋ぱれっとの贈答用ボックスをデザインしていただいた

ご縁からでしたが、今回初めて工房ぱれっとで作られたぬいぐるみや絵画作品に触れ、純粋なエネルギーに魅了されたとおっしゃっていました。そして、展示のアイデアとして天井からぶら下がり、引っ張ると上下に動く「らぶらびハウス」や、渋谷の街並みにも見えるミニチュアの家々、会場の目玉となる大きならぶらびのモニュメント(表紙参照)などを提案してくださいました。そのどれもが、こども達が遊んだり仮にぶつかったりしても怪我をしないように段ボールで作られています。ぱれっとメンバーがお二人と一緒にペイントを施し、鮮やかな色彩と力強い筆致で会場を彩りました。そして狙い通り、鑑賞するだけでなく、目をキラキラさせながら夢中になって動かして遊ぶこどもたちの姿を見るのはとても嬉しいことでした。



【楽しい空間演出】

また牧さんは、工房ぱれっとにとって初めての試みである絵画の販売についても背中を押してくださいました。今回初めて作品を展示した河合真里さんは、長谷部健渋谷区長が来訪した際、作品についての質問に、自分の言葉で堂々と答えていたのが印象的でした。

●～ショートムービー～

人形映画監督の飯塚貴士さんには、ぬいぐるみ達が主演となり、おかし屋ぱれっとのクッキー作りに出会うショートムービー(※)を作ってくださいました。人形操演にはぱれっとの面々や園のこ

ども達も参加し、中々味わえない楽しい経験を一緒にさせていただきました。

会場ではお客様の一人が「監督の眼差しがとても好きだ」と話してくれました。今回の作品も、ユーモアを交えながら多様な存在を温かく包み込む飯塚監督の視点が、工房ぱれっとの世界観をより強く後押ししてくださいました。

●～作り手たちのポートレート～

写真家の阪本勇さんにはおかし屋・工房のメンバーのポートレートを撮影していただきました。「仕事で自信を持っていること・がんばっていること」にまつわる物を手に写真に収まる皆の姿は、誇らしげな人、照れくさそうな人、緊張で固まる人…十人十色でしたが、完成した写真はどれもが眩しく見え、かけがえのない瞬間に感じられます。実は今回の展覧会で作り手たちを紹介することは、私たちがこの地域社会で活動していくにあたり、とても大事なことと位置付けていました。

●色々な人が混ざり合うこと

会場では工房ぱれっとのメンバーがぬいぐるみ作りをしたり、その横で赤ちゃんが遊んでいてお母さん達が談笑していたり…スペースを運営する渋谷東しぜんの国こども園の地域コーディネーターである藤原哲さんは「ここで見たかった光景が見られました」とおっしゃっていました。多様な人がこの場所と時間を共有し、居心地を作っていくことが今回の一つの大きな成果だったと感じます。出会った皆さんからの一つ一つの反応や言葉は、メンバー達やその家族の胸の中にもきっとキラリと光る宝石のような喜びを残してくれたはずです。それを胸にこれからも活動を続けていきたいと思えます。

(おかし屋・工房ぱれっと所長 玉井七恵)

(※)「らぶらびたんけんたい おかし屋ぱれっと編」は、こちらをご覧ください。



報告③ あおやまがくいんだいがく ば きかく 青山学院大学×たまり場ぱれっと コラボ企画

12月3日から9日までの1週間は、国が定めた障害者週間です。この期間に合わせ、障がい福祉を中心に活動を行っている青山学院大学(以下青学)の学生ボランティア団体Route福祉プログラムとたまり場ぱれっと(以下たまり場)で協働し、障がいについて学び考える2つのイベントを2日に分けて開催しました。

●①ボランティア入門講座

12月1日は、オンラインにてボランティア入門講座が開催されました。企画に興味を持った青学生も参加し、障がいのある方と接するにあたっての知識や考え方をワークなど交え学びました。

当日はゲスト講師として、NPO法人しょうがい生活支援の会すみか(佐賀県)代表理事、芹田洋志さんにご登壇いただきました。芹田さんからは、ご自身に障がいがあり、そのご苦労やチャレンジされてきたことを、当事者目線でお伝えいただきました。障がいってなに?普通ってなに?と問いかけられ、あらためて考えさせられました。

また、たまり場のボランティアも登壇し、ボランティアを始めたきっかけや障がいのある方との余暇活動における体験談についてお話ししました。質疑応答コーナーもあり、活発な意見交換ができました。

●②暮らしについて考える会

12月4日は、青学の青山キャンパスにて交流会を行ないました。第1部では、「青学ツアー」と題し、青学生の案内の

もと、3つのグループに分かれてキャンパス内を散策しました。1つのグループにつき、青学生、障がい者、及びボランティアで構成し、協力してクイズを解きながら、食堂、講堂、教会などを巡りました。黄金色の銀杏並木が大変美しく、教会から流れるゴスペルも雰囲気たっぷりに、「まるで外国みたい!」と感嘆の声が上がりました。

キャンパス内散策後の第2部では、校内会場にて、3つのグループそれぞれが理想の暮らしについて話し合いました。今の暮らしについて、そして、これからの暮らしについて、多様な暮らし方がある中で、自分にとって理想とする暮らしとは何なのか、お互い話し合いました。

●コラボイベントを通して

貴重な機会をいただき、Route福祉プログラムの皆さまには大変感謝いたします。

イベントを通して、障がいに対する理解や考え方を共有し深めることができました。理想の暮らしについて話し合う際には、「障がい」というフィルターを外して、一人の人間としての価値観や想いとして素直に耳を傾けることができ、今回の企画の主旨が伝わったのではないかと実感できる時間となりました。



【交流会参加の皆さまと】

(たまり場ぱれっと 仲井香織)